山武管工事の組合総会

受注機会の増大

健全経営に取組強化

水道行政への協力と受注拡大を確認した総会

山武管工事業協同組合（加藤年展理事長）は、東金市内で第52回通常総会を27日に開き、地元指定業者として水道行政への積極的な協力と災害復旧訓練への参加、組合員全体の受注機会の拡大などを盛り込んだ2026年度の事業計画案が組合員に承認された。自己研さんとともに足並みを揃え、事業活動を展開するとした。

総会で加藤理事長は、中東情勢の影響で、国の経済情勢が先行き不透明な状況だと危惧。「水道資機材の高騰、品薄で納品が難しい」などとし、「これまでの流通になるように期待する」と述べた。

その上で、「組合員一人一人が一致団結して経済変化に対応できる強固な組合を構築し、健全経営に取り組む必要がある」と強調した。

組合は、事務代行による給水装置工事承認取り扱い、山武郡市広域水道企業団から受託した公道などの漏水修理工事、量水器交換、水道資材共同購入販売などを行っている。

加藤理事長

また、緊急災害時に対応するため、企業団との災害協定に基づく災害対策訓練への参加、定期通信試験の実施、備蓄飲料水、応急給水用タンクを確保し、常に出動体制を整えている。

26年度も企業団など関係機関との綿密な連絡・協調の強化を図り、収集した情報を組合員に速やかに伝達するとともに、福利厚生事業を推進する方針だ。

担い手不足については、組合員の安定した経営基盤の構築と管工事業界が若者にとって、魅力を感じる業界として発展するために、技術力の向上とともに福利厚生を整備し、組合独自のホームページで情報発信することで、雇用の改善を図るとした。

組合資材調達委員長の根本祐樹氏の乾杯の発声で懇親会がスタート。来賓として出席した山武郡市広域水道企業団の佐藤晴彦企業長は「老朽化施設の更新、災害時の対応など、組合の確かな技術と尽力に感謝する」と述べ、「地域住民の生活を守るため、持続可能な水道事業を目指す」とした。

小野崎山武市長

佐藤企業長

山武市の小野崎正喜市長は、「組合は地域にとって何よりも重要な活動をしている。会社が大きくなれば地域も大きくなると感じる。地域発展のため、協力に期待したい」、東金市の山下美紀市長は「組合の災害時復旧活動や、道路陥没事故を未然に防ぐ維持管理は、縁の下の力持ちだ。住民の安心で安全な生活を守るため、これからも連携、支援したい」と話した。

山下東金市長

根本委員長の乾杯後、団結に向けて意見を交わした

県建築士会船橋支部ら

船橋市と協定締結

地震災害時の応急対策

協定締結書交換後の歓談では、相互の知見を述べ合った

県建築士協会船橋支部（持永広司支部長）と県建築士事務所協会船橋支部（佐竹康裕支部長）は、船橋市と地震災害発生時における応急対策活動に関する協定を締結した。震度5強以上の地震が発生した時に被災建築物応急危険度判定を迅速かつ円滑に実施することを目的に掲げるもので、官民の更なる連携強化が図られている。県建築士会船橋支部らと船橋市との協定締結は初の取り組み。

27日に市役所庁舎で開かれた協定締結式には県建築士会船橋支部から持永支部長と椿奈緒美一級建築士、同支部建築住宅相談室の齊川孝広室長、県建築士事務所協会船橋支部から佐竹支部長と鈴木恭一副支部長兼会計、船橋市から松戸徹市長と建設局建築部の木村智部長、同部建築指導課の七條康司課長建築主事が出席。それぞれが、あらかじめ用意した協定書を交換し、協定を結んでいる。

持永支部長

佐竹支部長

協定締結後のあいさつで松戸市長は、日ごろから相談要望に対して会員を派遣するだけでなく耐震診断・耐震改修などについて多方面で力を注いでくれている両団体と協定を締結できることに、あらためて「心強い」と喜んだ。その上で、船橋市に影響がある直下型地震が起こった際には3万棟以上の被害が想定されることなどから、市民の生活維持に欠かせない被災建築物応急危険度判定はもとより、それに備える耐震化による強いまちづくりに向けた力添えを呼びかけている。

松戸市長

持永支部長は、まず関係者の尽力により今回の協定締結に至ったことに感謝の言葉を述べると、県建築士会船橋支部が県建築士事務所協会船橋支部とともに普段から開いている住宅相談など市民に寄り添った活動の一部を紹介。活動の中で触れ合う市民らの地震災害に対する意識が高まっていることなどから、地域のためにいつでも動けるよう準備を整えていくと意気込みを示している。

佐竹支部長は、日ごろから安全対策に尽力してくれている市職員らにあらためて敬意を表すと、近年、頻発している地震や大雨といった災害への備えは行政だけでなく地域の民間団体が力を合わせる重要性を強調。今回の協定締結を通じて、災害時には迅速に対応し、平時においても連携を深めながら、より安心して暮らしやすい地域づくりに役立てるよう努めていきたいと結んでいる。

協定を結び、更なる官民での連携を強化した式典参加者

また、歓談の場では、実際に大規模地震が起こった際には建築士や市職員も被災者となることから、まず自身の安全を確保した上で、業務にあたってほしいことや、有事の際を想定したシミュレーションの実施をこれから検討していくことなどを確認。また、松戸市長から「建築士の仕事展」で子ども達にとって貴重な体験を提供してくれていることにねぎらいの言葉をかける一幕もあるなど、有意義な時間を共有している。

県交通安全施設業組合

永年勤続者ら表彰

組合員の意欲向上図る

永年表彰の鶴岡氏（右から２人目）

功労表彰の表彰状を手にする（左から）林氏、大沼氏、鈴木氏

県交通安全施設業協同組合（黒川裕二理事長）は、同組合に所属し、県の各機関から感謝状などを受けた者と多年にわたり継続して職務に精励した社員を表彰した。表彰は組合員の意欲向上を目的に2020年に開始され、23年を除き毎年行っている。

表彰式では功労表彰として、県土整備部の難工事表彰を受けた林茂樹氏（代理林拓弥氏、林産業）、県職業能力開発協会から技能検定に係る功労として知事感謝状を受けた鈴木清之氏（サンエイロテック）、同協会会長表彰の技能検定委員功労を受けた大沼秀人氏（日本ラインサービス）の3人を表彰。各社から推薦された15人も永年表彰をたたえられ、功労表彰を受けた3人と永年表彰受賞者を代表した鶴岡佑一氏（道標）が黒川理事長から表彰状と報奨金を手渡され、一層の熱意を持って職務に取り組む決意をあらたにした。

黒川理事長（中央）が表彰状を手渡した

同組合は正会員28社と賛助会員12社で構成され、県内道路の区画線整備やガードレール、カーブミラーなど交通安全施設の施工を手掛ける。毎年、県内全域の県管理道路で区画線調査やカーブミラーの点検・清掃と簡易な補修を行うなどボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。

永年表彰の受賞者は次の通り（順不同、敬称略）。

▽内山義信（北総産業）▽安藤昌也（森川産業）▽中塚直樹（千葉ラインナー）▽木村友哉（サンエイロテック）▽平野由樹（同）▽小林千鶴（同）▽鶴岡佑一（道標）▽渡辺美穂（同）▽板倉由美子（同）▽登坂孝之（増田産業）▽保坂徳子（東総工業）▽出盛康武（増田産業）▽竹田昌平（森川産業）▽草野晃司（森川産業）▽鈴木春美（千葉県交通安全施設業協同組合）

民間建築の好調続く

3月 建設工事受注額　国交省

国土交通省は、3月の建設工事受注動態統計調査（対前年同月比）の結果をまとめた。それによると、本県の公共機関（1件500万円以上）からの請負額は6・8％増1434億0400万円、民間などからの受注工事で建築工事・建築設備工事（1件5億円以上）は47・8％増の1661億2200万円、土木工事および機械装置等工事（1件500万円以上）は7・6％減の570億8000万円となった。

全国の受注高は、16兆4165億円で、前年同月比0・8％減となり、先月の増加から再び減少した。元請受注高は、12兆4087億円で1・1％増となり、5カ月連続の増加となった。下請受注高は、4兆0078億円で6・3％の減少、12カ月連続の減少となった。

業種別にみると、総合工事業は10兆5835億円で8・4％の減となり3カ月ぶりの減少となった。

職別工事業は、1兆6785億円で5・9％減となり、12カ月連続で減少している。

設備工事業は、4兆1545億円で、29・6％増となり、19カ月連続の増加となった。

元請受注高を発注者別にみると、公共機関からは、4兆6223億円となり、13・2％増で、2カ月連続の増加、民間などからは、7兆7864億円で、4・9％減で、5カ月ぶりの減少となった。

工事種類別にみると、土木工事は4兆3364億円で、10・4％増となり2カ月連続の増加、建築工事は6兆7099億円で、10・2％減となり、4カ月ぶりの減少となった。機械装置などの工事は、1兆3623億円で55・8％増となり、先月の減少から再び増加している。

業種別では、総合工事業9兆3420億円で8％減となり、4カ月ぶりの減少、職別工事業は、4542億円で11・5％増となり、6カ月ぶりの減少、設備工事業は、2兆6125億円となり、52・5％の増加で、16カ月連続して増加している。

保育所送迎車庫を新築

いすみ市6月補正予算

小路市長

いすみ市の小路正和市長は29日、記者会見で6月2日開会の市議会定例会に提出する一般会計補正予算案を明かにした。1億6869万円を追加する見通しだ。

主な建設関連費としては、保育所施設整備、市道維持管理事業などを計上している。

保育所施設関連では、こども園の送迎バス車庫新築工事に1357万円、エアコン改修122万円、中根、東海、第二保育所のエアコン交換工事などに239万円のほか、放課後児童クラブエアコン交換114万円などを見込んだ。

市道維持管理では、舗装補修工事に838万円、道路維持工事に1586万円、河川工事では500万円などを計上した。

このほか、岬ふれあい会館の自家発電設備改修工事314万円、文化ホール舞台吊物設備改修工事283万円を計上した。

また、第3次総合計画策定支援に2027年度限度額945万円の債務負担を設定した。

東日総業に優先交渉権

DBで防災倉庫を整備　一宮町

一宮町は、災害時の物資の受入・保管・搬出を円滑に行うため、GSSセンター（一宮）に防災用備蓄倉庫を整備する。設計・施工を一括（DB方式）で担当する事業者にプロポーザルで東日総業（一宮町）を優先交渉権者に選定した。工期は2027年3月26日まで。提案上限額に9075万円（税込）を設定していた。

予定地は既存プールの敷地で、プールの解体撤去・整地・倉庫建設を一体として実施するほか、外構、設備を整備する。地中障害物などの可能性があることから、これを踏まえた工程・施工を計画する。

倉庫の規模は、S造平屋（ブレース構造）延べ375㎡（25m×15m程度）とし、プレハブ工法を基本とした。4t車が倉庫内に進入して荷さばきを行う運用を前提としている。車両用の主出入口は電動シャッターで、通用口（施錠可能）は、1カ所以上設ける。

設備などについては、換気、屋外照明とともに、発電機燃料として携行缶5缶以内を保管できることなどを想定している。

町は、提案事項に、必須ではないとするも、災害時での迅速搬入の工夫、防犯性の向上、維持管理の省力化、収納力の向上などを挙げていた。

保育所統合へ園舎撤去など

旭市補正予算

旭市の米本弥一郎市長は29日の記者会見で、6月5日開会の市議会定例会に提出する一般会計補正予算案の概要を発表した。保育所統合整備として、旧まんざい保育所の園舎・倉庫など解体撤去と、昨年3月に閉所した旧ゆたか保育所の地下埋設管撤去工事に事業費7051万円を計上している。

今回の補正予算案では、これ以外にも農林水産業費として銚子沖洋上風力発電事業に伴う漁業振興基金積立金1億2000万円、堆肥散布車の整備を支援するさわやか畜産総合展開事業302万円なども確保する。市議会定例会の会期は6月25日までの21日間を見込む。

経営体育成支援を増額

富里市補正予算

富里市（五十嵐博文市長）は29日の定例記者会見で、6月2日開会の市議会定例会に提出する一般会計補正予算案の内容を明らかにした。主な内容をみると、経営体育成支援事業に459万円を計上している。

同事業では、生産性向上につなげる施設導入を促進し、生産安定と品質向上、生産地としての維持発展を図る。農地利用効率化等支援交付金について、県から追加要望の調査があり、事業実施主体から1件の追加要望があったことから、予算の不足が見込まれるため、増額補正する。

防災倉庫を1基整備へ

東庄町補正予算

東庄町の岩田利雄町長は29日に、6月5日開会の町議会定例会に提出する一般会計補正予算の概要を明らかにした。防災倉庫設置事業に110万円を計上している。地域防災力の向上のために防災倉庫1基を整備する。水防倉庫に隣接して設置することで水防機材との一体的な管理を図る。町議会定例会は6月10日までを予定する。

用水管修繕工事を追加

白子町予算

白子町（緑川輝男町長）が6月5日開会の町議会定例会に提出する一般会計補正予算案は、3739万円を追加する見通しだ。

建設関連費をみると、用水管修繕工事173万円を追加している。

今回の補正で、総額を56億7734万円とする予定だ。

行事予定

6月1日～5日

●1日(月)＝▽県道路整備促進協議会・通常総会（15時45分、ロイヤルパインズホテル千葉）

●2日(火)＝▽県建築士事務所協会・定時総会（13時、京成ホテルミラマーレ）

●4日(木)＝▽日本塗装工業会県支部・通常総会（16時30分、京成ホテルミラマーレ）

●5日(金)＝▽県建設業協会青年部会・通常総会（16時、ホテルポートプラザちば）▽県道路舗装協会・定時総会（16時、オークラ千葉ホテル）

※予定は変更・中止になる可能性があります。お出掛けの際は事前に主催者にご確認下さい。

千葉市花島総合公園

造園土木工事・造園材料

知事許可（特定）623号

千葉造園土木株式会社

千葉市稲毛区黒砂台２－12－７

☎043－243－7721㈹

FAX043－243－7753

樹木養生場所　匝瑳市東小笹

〃　八街市八街

芝生養生場所　茨城県つくば市